



## 年頭のご挨拶

一般社団法人 秋田県経営者協会

会長 湊屋隆夫

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルス感染第5波の猛威にさらされた昨年は、前年に引き続き厳しい年でありましたが、10月に入って第5波にも鎮静化の兆しが見え始め、11月にはひとまず収束とってよい状況となりました。第6波また新たな変異株であるオミクロン株の脅威が依然として懸念されるものの、足元では11月以降日本シリーズなどのスポーツイベントにおいて観客上限数が緩和されるなど、ようやく日常が戻りつつあるように思います。諸外国での感染再拡大が伝えられる中であって、いまさらながらワクチン接種を最優先に取り組んできた菅内閣のコロナへの諸対応策は、大いに評価されてしかるべきと思っております。

さて、経済に目を移しますと、7-9月期の実質GDP成長率が前期比マイナス0.9%、年換算率ではマイナス3.6%となるなど、なお新型コロナウイルスの影響が色濃く影を落としています。その要因として、半導体不足による自動車等の生産減少等に加え個人消費の落ち込みがあります。緊急事態宣言により飲食、旅行などの接触型サービスが低迷し、個人消費は前期比マイナス1.3%となりました。

こうして迎えた新年であります、GDPの半分以上を占める

個人消費の拡大を始め、今年こそ経済を回復・反転させる年にした  
いと強く願っております。

菅内閣の後を受けて発足した岸田内閣は、経済政策として「成長  
と分配の好循環による新たな資本主義」を掲げ、経済成長により  
得られた果実を適切に分配することを目指しています。

これを企業経営に置き換えますと、生産性向上により事業活動  
で創り出す付加価値を増加させるとともに、その成果を従業員と  
分かち合うということになるでしょう。政府の掲げる「成長と分  
配の好循環」を実現させるためには両輪の一方である成長が前提  
となるように、企業にとって前提となるのが生産性の向上であり、  
そのためには、従業員の能力が十分に発揮される活力ある組織で  
なくてはなりません。

従業員一人ひとりの能力を最大限に発揮してもらう上では、「エ  
ンゲージメント」と「雇用の改善」をセットとして推進すること  
が必要となります。「エンゲージメント」とは企業と従業員との間  
の深い信頼関係を意味しますが、そうした信頼関係を築くには従  
業員が安心して働くことの出来る環境づくりが不可欠だからです。

「長時間労働の抑制」、「年次有給休暇の促進」、「多様な人材確保  
への取組み」、「女性の活躍推進」等の雇用環境の改善を進め従業員  
との信頼関係を確立してこそ、従業員が能力や新しいアイデアを  
十分に発揮して事業革新を遂行することが可能となり、それがま  
た優秀な人材の確保にもつながります。

会員企業様が、それぞれの経営課題に果敢に取り組み、ます  
ますのご発展を遂げられますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶  
とさせていただきます。

令和4年元旦

